とうきょうすくわくプログラム活動報告書

ベネッセ西馬込保育園
大田区仲池上１－８－２
（株）ベネッセスタイルケア

１．活動テーマ

表現：表現　　対象児：３～５歳児クラス

＜テーマの設定理由＞

「その子らしく伸びていく」という理念のもと、自己表現の機会として造形あそびを通して受け止めてもらえたり、認めてもらえたりという経験を積みかさねて自分らしく、自分を表現することに自信が持てるよう育んでいきたい。

２．活動スケジュールと探求活動実践内容

・４/２４…４，５歳児　土粘土遊び

昨年も経験していることもあり、素材に対しての不安感もなく、乾かないよう濡れ雑巾も上手に使いなから、すぐに遊びだす。一人ひとりの遊びから周りの刺激を受けて一緒に遊びだす姿も見られる。

・５/２８…３歳児　土粘土遊び

初めての体験となる。普段使っている粘土との違いを感じ、なかなか触れることができない子もいたが、遊びだしているお友達の様子をみたり、保育者や講師の声がけなどで気持ちが変わり遊びだし、それぞれの姿が見られる。約１時間集中する。

・6 月 25 日…4，５歳児　絵画（抽象画）

全員が一度に描けるような模造紙に、それぞれが自由に描く。5 歳児は書き出すまでに個人差はあるが、時間がかかった。失敗したくないとか、何を描こうか迷っている児もいた。周りの子が描きだしたのを見て刺激されてイメージが沸き描きだす姿もあった。しかし４歳児は、すぐに絵具で思い思いに描き始める。不安とか迷いはなくのびのび描くことを楽しむ姿があった。

・9 月 17 日…2 歳児　砂と自然（園庭）

普段の砂場の遊具は出さず。シャベルとバケツのみ使用。

砂場の砂の園庭の地面の砂、畑の土など改めて、見て触ってそれぞれが感じたことを言葉で表現する。一人一つのシャベルとバケツがあることで、気になった石や落ち葉など自然物を自分のバケツに入れる。自分だけの大切な宝物のように、見つけると保育者やお友達に見せて満足げな様子だった。その中で地面の砂に貝殻が混じっていることに気づいて、疑問に思った子が「なんで水（海）じゃないのに貝があるの？」と大人に問う。保育者も「海の砂を持ってきているからだね」というと「海行ったことある！」など納得し見つけた貝殻を大切にバケツに入れたいた。

・１０月２８日・・・５歳児　絵画（抽象画）

卒園アルバムの表紙作成　　テーマ「クレヨンの散歩」

普段使用している画用紙より大きいが、６月に大型ロール紙に絵画の経験をしているので、こどもたちは、わくわく気分で取り組んでいた。好きなクレヨン一本で紙の上を散歩して

する。色々な道が描かれたいく。交差していくことで広場のようなスペースができることによってこどもたちの頭の中には、どんどん想像の景色が描かれていく。「〇〇公園にしょう」とか「ここはうみ！」などスペースに思い思いの色を塗るつぶしていく。思いがけず出来上がっている形から自分の経験値でイメージしていく面白さを味わう活動になっていた。保育者の声がけはほとんどないが、こどもの声を拾って共感していくだけで、こどもたちの満足度が高い遊びとなった。

・１１月１９日・・・５歳児　陶芸体験

昨年から、土粘土に触れ遊んできたこどもたちは、自分のお皿を作ることに挑戦する。いつもの土粘土の感触とは少し違っていたが、それぞれ迷うことなく、手を動かし集中して作り出していた。個人差はあるが、細部にわたって作っていて一時間以上かけて完成する子もいた。自分が納得するまで、作り上げていく姿をみて、まさに「自分らしく表現する」という保育の一番大切にしているところに保育者も改めて気づく。

１月末、焼きあがり食器としておやつの時間に使用する予定。

・２月４日・・・３，４歳児　土粘土遊び　（感染症のため中止）

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・絵具（赤、黄色、青、ピンク、黄緑）　・筆　・土粘土（リース）、粘土板（リース）
一人一枚の雑巾、ブルーシート　・　陶芸用粘土　・絵画用ロール紙　・アルバム表紙用画用紙

＜活動の内容の写真＞

５．振り返り

４・５歳児は、昨年から土粘土に触れる経験を重ねてきたことで、素材の特性を理解し、使っていない粘土には濡れ雑巾をかぶせておかないと乾いて固くなることなど、扱い方も身についてきている。また、粘土にもさまざまな種類があり、それぞれ使い方が異なるということを知る機会にもなっている。

実際に粘土を手にした瞬間から、こどもたちの頭の中にはイメージが浮かび、それを粘土で表現する姿が見られる。迷うことなく集中して作り始める様子も多く見られた。時間が経つにつれ周囲への関心も広がり、他児の作品に興味を示して近づいていく姿もある。そこから「一緒に〇〇作る？」という声が生まれ、共通のテーマができ、遊びが広がっていく様子が見られた。

自分の表現したものを他児に認めてもらったり、逆に他児の表現を認めたりする中で、自然なコミュニケーションが育まれていることも、この土粘土遊びの大きな意味である。

こうした「自分らしく表現する楽しさ」を積み重ねる経験は、就学までに育ってほしい『10 の姿』にかかわる資質・能力の育ちにつながる重要な活動となっている。

３歳児も、これから就学までの間に、アートを通して自分の思いを表現する体験を重ねていくことで、自分らしく生きていくための芽が育つよう、さらに保育を進めていく。